

県内の農作業負傷事故の発生事例

福島県農業総合センター 企画経営部 経営・農作業科

1 部門名

その他－その他－作業技術

2 担当者名

青田聡、作田善紀、星太介

3 要旨

県内の農作業死亡事故については調査事例があるものの、負傷事故については調査事例がない。そこで、福島県農業協同組合中央会、県内各農業協同組合と連携し、県内で発生した負傷事故について詳細な聴取調査を行い、事故の発生要因と考えられる対策をまとめた（表2）。

(1) 聴取調査は、福島県農業協同組合中央会が2020年3月から2023年8月に調べた負傷事故197件（表1）の中から12件を抽出した。

表1 県内の農作業時使用機械・農具別の負傷事故発生件数

使用機械・農具	脚立	刈払機	乗用トラクタ	歩行用トラクタ	運搬車	自脱型コンバイン	乗用草刈機	その他	なし	不明	総計
件数	31	20	10	6	5	4	4	56	59	2	197

※福島県農業協同組合中央会調べ、2020年3月～2023年8月

表2 県内農作業負傷事故の発生事例（抜粋）

使用機械・農具	発生月	事故の内容	発生要因	考えられる対策
脚立	11月	5尺の脚立に乗ってリンゴの収穫作業中、脚立の脚が開いてしまい転落し右足首を骨折した。	開き止めのチェーン未施行。	開き止めのチェーンの使用。
乗用トラクタ	8月	ロータリ耕で旋回時に、トラクタごと3m下のU字溝に転落し、右肩甲骨を打撲した。	法面との境界が分かりづらい。枕地が狭い。	畑と法面の境界にポールを設置。シートベルトの装着。枕地幅の確保。
歩行用トラクタ	6月	ネギ管理機でロータリのクラッチを切らずにスロットル全開のまま次行程に入った際、キックバックを起こし急後進し、機械の下敷きとなり腰椎を骨折した。	ロータリのクラッチを切らずに旋回した。エンジンの回転数が高かった。	旋回はスロットルを緩め、ロータリのクラッチを切る。

※表1の事故197件の内、聴取調査をした12件から3件を表記した。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和5～9年度
- (2) 研究課題名 福島県農業経営・就農支援センター運営事業

5 主な参考文献・資料

- (1) 事故事例の個別調査報告（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門）